

1-2					
主題	入学4か月後の自分たちが考える介護福祉士の役割と介護現場への期待				
副題	介護福祉士養成校で学ぶ意義とは				
キーワード 1	チームワーク	キーワード 2	知識の活用	研究(実践)期間	4ヶ月

法人名・事業所名	東京 YMCA 医療福祉専門学校 介護福祉科 1 年生				
発表者(職種)	川田悠斗(学生)、清水歩生(学生)				
共同研究(実践)者	大房立明(学生)、大日方美咲(学生)、濱尾翔(学生)				

電話	042-577-5521	FAX	042-577-5506
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	東京 YMCA により 1996 年に国立市に設立された、介護福祉士と作業療法士を養成する専門学校です。カレッジスピリットの「互いに愛し合いなさい」という聖書の言葉を誰もが大切にしています。介護福祉科 1 年生は、日本、中国、ミャンマーの 31 人のクラス。全員が現場で活躍する介護福祉士を目指しています。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

私たち学生は、専門的知識と技術を習得し介護の専門家になるために東京 YMCA 医療福祉専門学校に入学した。入学後、現在に至るまでの4か月間ではあるが、医学的知識、介護福祉の歴史や倫理、コミュニケーション技術、移動などの基本的な生活支援技術等を学習し、5日間の利用者とのかかわりを中心とした実習も経験した。介護福祉士になるためには、多様な授業や実習を統合していく必要性が分かってきた。卒業までの過程において、学生自身が在学中の学びをもとに、介護福祉士養成校で学ぶ意義を述べた研究はない状況である。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

授業や実習による多様な学びを総合的に振り返ることで、介護福祉士の役割及び学校で学ぶ意義を明らかにしたい。授業で得られた知識の活用や、クラスの仲間とのチームワーク、利用者との関わる力を身に付けることで、現場で介護をする力に近づけるのではないかと。

《3. 具体的な取り組みの内容》

グループワークによる課題の振り返りを多く実施している「学習支援演習Ⅰ」、「介護総合演習Ⅰ」、「人間関係とコミュニケーションⅠ」の3つの科目を選択し、入学時から6月までの学習成果物(グループ発表で使用した模造紙、授業リアクションペーパー等)を本研究メンバー5名で精査し、学びによる気づきや変化、課題等を話しあい、最後に図式化した。

「学習支援演習Ⅰ」: 入学直後の4月と夏休み前の7月に、クラスのグループごとに全ての学習の感想と振り返りを実施した。4月は「授業時間が長い」「専門用語が多い」など、不安に繋がる内容が多かったが、7月は「勉強を頑張った」「学校行事などを全力で楽しむ」、「みんなで助け合う」等の、グループ内でサポートしあう内容も記入されていた。

「介護総合演習Ⅰ」: 実習の準備と振り返りが主な授業内容である。6月の5日間の実習は、

コミュニケーションを中心とする利用者理解が学びの中心だった。実習後の授業のグループワークでは、各自実習での印象に残る体験を吹き出しシートに記入し、他のメンバーと共有し発表した。また、個人シートでの振り返りも行った。本研究メンバーはこれらの内容を精査した。その結果どのグループからも、利用者とのコミュニケーションの難しさを感じながらも、授業の知識を活用し、実習指導者にも確認しながら工夫していることが分かった。また、吹き出しシートの記入と模造紙の張り出しをしたことで、他の学生の体験を知ることに繋がった。

「人間関係とコミュニケーションⅠ」：介護現場で必要となるチームコミュニケーションについて、講義と演習を行う授業である。演習は3日間の集中授業で、チームでシンボルフラッグ作り、創作ダンス、ウォークラリー等を行った。本研究メンバーの振り返りにより、課題の取り組み方、チームコミュニケーションの改善点、自分自身の傾向（自己覚知）などを確認することができた。

《5. 考察、まとめ》

授業や実習で学んだ内容を通して、介護福祉士の役割及び学校で学ぶ意義について考察する。

「学習支援演習Ⅰ」の振り返りから、学校の勉強は授業とその課題に追われながらも、クラスのメンバーとの関係を築き、助け合いながら、前向きに取り組んでいることが分かる。

「介護総合演習Ⅰ」の実習の振り返りでは、利用者とのコミュニケーションの難しさや学校で学んだ知識の活用に悩んでいることがわかった。一方、「たくさんの報告を見たり聞いたりできた」「どうするとよいかかわり方ができるのかを考える機会があった」などの大切さに気付いた。1つの課題に対し様々な方法を学びあえることが学校の特徴ではないだろうか。また、現場の介護職のかかわり方が参考になっているという記述もあり、現場には目指したい先輩の姿があった。これらの複数の授業、演習、実習の経験は、「求められる介護福祉士像」にある、社会状況や人々のニーズに応じた介護の実践につながると考えた。

「人間関係とコミュニケーションⅠ」ではチームで一つのことを達成する課題に取り組んだ。その結果、チームメンバー全員が目的を理解して取り組むことや、結果だけではなく取り組むプロセスが大切だと分かった。以上のことから介護現場ではこれまで学んできたことが活かせるのではないかと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究(実践)発表を行うにあたり、学生個人シートはこの作業のみで使用する事とし、不利益を被ることはないことを説明し、同意を得たところで研究活動を開始した。

《7. 参考文献》

「求められる介護福祉士像」平成29年10月 日本介護福祉士会

<https://www.jaccw.or.jp/about/fukushishi/image> (2023年7月11日閲覧)

「介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」(2022)、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規

「介護福祉士養成講座 人間の理解」(2022)、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規

《8. 提案と発信》

介護福祉士養成校での4か月間の学びの途中ではあるが、今回の発表を通して得られた利用者へのかかわり方について、チームの中で考え実践する力を身に付けることで、介護福祉士の役割と学校で学ぶ意義を整理することができた。